

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

■科目基本情報

| | | | |
|----------|------------------|-------|------|
| 科目名 | ヒラメキデザイン | 科目コード | 9690 |
| シラバスコード | 195E2R-9690 | | |
| 授業時数/週 | 1時間/週 | | |
| 開講年次・学期 | 1年・通期 | | |
| 必修/選択区分 | 必修 | | |
| 担当教員 | 河田悠輝 | | |
| 教員の実務経験 | 実務経験のある教員による授業科目 | | |
| 職業実践専門課程 | | 連携企業等 | |
| 備考 | 1回2時間×17回/年 | | |

■科目詳細情報

| | |
|-----------|---|
| 授業概要 | 「共創」をテーマに、学科を超えたグループワークを行う。アイデアの発想法やUXバグのデバッグの手法を通して、デザインのきっかけの作り方を学ぶ。 |
| 到達目標（前期） | これからの社会変化を知り、その変化への適応方法を考えられるようになる。チームでのワークショップを通じてコミュニケーションに慣れ、他者とのコミュニケーションのストレスを軽減する。 |
| 到達目標（後期） | 目に見える人の行動や出来事の裏にある本質的なニーズは何なのかを分析ができるようになる。 |
| 授業方法 | 講義を行い、チームでのワークショップを行い、宿題で復習し学ぶ。 |
| 実践的教育の内容 | （デザインを「課題解決」と定義）グラフィックデザインを中心としたデザインを生業とする教員より、デザインをする際の考え方を全ての分野の学生に対して教える。学生は仮の課題解決を通じてその手法を実際に体験し身につけていく。 |
| 評価方法（前期） | 出席30%、課題の提出35%、授業中の取り組み・成果評価35% |
| 評価方法（後期） | 出席30%、課題の提出35%、授業中の取り組み・成果評価35% |
| 授業外における学修 | 課題（宿題）のプリントの設問を解く |
| 授業計画（前期） | 第1回 なぜこの授業を行うのか・セルフブランディング 「共創」をテーマにこの授業を行う理由についての講義と周囲との相対評価で苦しまないセルフブランディングについての講義・グループでの自己紹介 |
| | 第2回 なぜこの授業を行うのか・セルフブランディング 「共創」をテーマにこの授業を行う理由についての講義と周囲との相対評価で苦しまないセルフブランディングについての講義・グループでの自己紹介 |
| | 第3回 社会変化を見据えたビジネスの考え方 人口減少やテクノロジーの進歩という社会変化を見据えてどのようなビジネスモデルを描くのか、お金を稼ぐとはどういうことなのか、なぜこの学校で学ぶのかの講義とグループワーク |
| | 第4回 社会変化を見据えたビジネスの考え方 人口減少やテクノロジーの進歩という社会変化を見据えてどのようなビジネスモデルを描くのか、お金を稼ぐとはどういうことなのか、なぜこの学校で学ぶのかの講義とグループワーク |
| | 第5回 複数人で行うグループワークで最も間の発想法として使いやすいブレインストーミングの手法を実践で学ぶ ブレインストーミングの手法 |
| | 第6回 複数人で行うグループワークで最も間の発想法として使いやすいブレインストーミングの手法を実践で学ぶ ブレインストーミングの手法 |
| | 第7回 複数人で行うグループワークで最も間の発想法として使いやすいブレインストーミングの手法を実践で学ぶ ブレインストーミングの手法 |
| | 第8回 チームビルディング 出された課題に対してチームで解決方法を考え、時間・進行管理・チームでの円滑なコミュニケーション・別の人からの仕事の引き継ぎについてなどを学ぶ |
| | 第9回 チームビルディング 出された課題に対してチームで解決方法を考え、時間・進行管理・チームでの円滑なコミュニケーション・別の人からの仕事の引き継ぎについてなどを学ぶ |

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

| | | |
|----------|--|---|
| 授業計画（後期） | 第10回 | 行動や出来事から本質的なニーズを探り出し、そのニーズを満たすデザインを考える 目に見えるものだけではなく、本質的なニーズまで分析し、その後アイデアを考える方法を学ぶ |
| | 第11回 | 行動や出来事から本質的なニーズを探り出し、そのニーズを満たすデザインを考える 目に見えるものだけではなく、本質的なニーズまで分析し、その後アイデアを考える方法を学ぶ |
| | 第12回 | 行動や出来事から本質的なニーズを探り出し、そのニーズを満たすデザインを考える 目に見えるものだけではなく、本質的なニーズまで分析し、その後アイデアを考える方法を学ぶ |
| | 第13回 | 実課題に対してチームでアイデアを考える 実際の課題に対して本質的なニーズの分析・アイデア出しまでを行う |
| | 第14回 | 実課題に対してチームでアイデアを考える 実際の課題に対して本質的なニーズの分析・アイデア出しまでを行う |
| | 第15回 | 実課題に対してチームでアイデアを考える 実際の課題に対して本質的なニーズの分析・アイデア出しまでを行う |
| | 第16回 | 実課題に対してチームでアイデアを考える 実際の課題に対して本質的なニーズの分析・アイデア出しまでを行う |
| | 第17回 | 考えたアイデアをチームで発表する 考えたアイデアを全体で共有する |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 教科書・教材 | なし |
| 参考文献・資料 | <p>「未来の働き方を考えよう」 文藝春秋：ISBN4163764100 「10年後、君に仕事はあるのか?」 ダイヤモンド社：ISBN4478101884 「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」 講談社：ISBN4062884313 「企画は、ひと言。」 日本能率協会マネジメントセンター：ISBN482071905X 「問題解決に効く「行為のデザイン」思考法」 CCCメディアハウス：ISBN4484152215 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」 翔泳社：ISBN4798122971 「ビジネスモデル2.0図鑑」 KADOKAWA：ISBN4046023619</p> | |
| 履修上の留意点 | 特になし | |